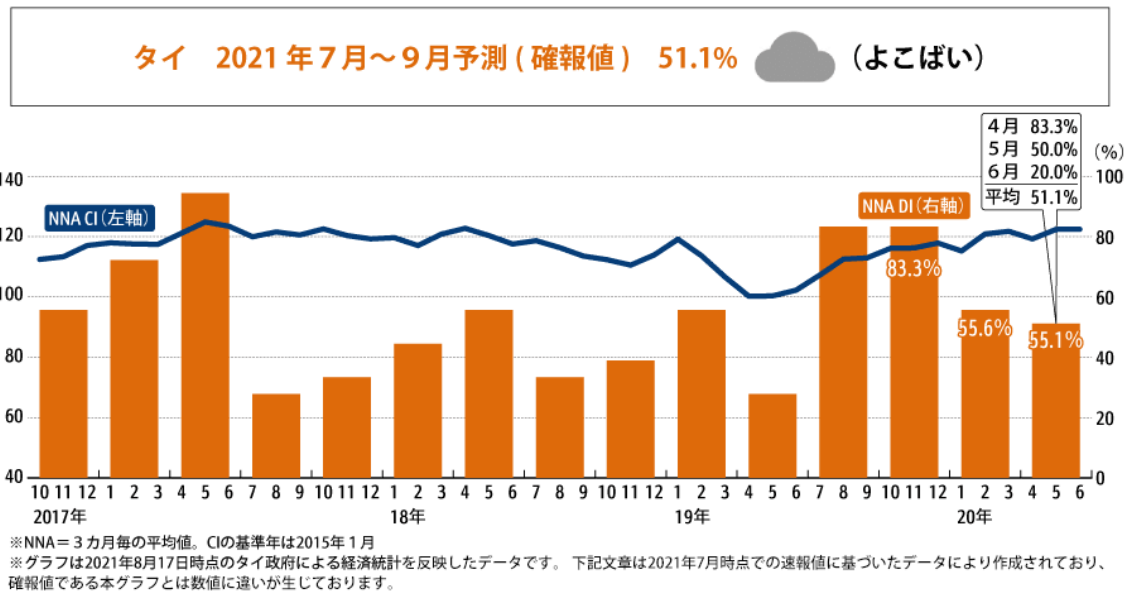


2021年8月19日

## 【タイ】NNA 景気指数 2021年第3四半期予測（確報値）



### ■ 感染急拡大で先行き不透明に

- ・デルタ株の感染広がる
- ・D I が5月に急落
- ・行動制限で景気下降局面も

### <経済アナリストの目>

タイは2021年3月までは新型コロナウイルス感染症の拡大抑制に成功してきたが、4月以降、感染が拡大して「第3波」が到来し、各種の感染抑制策の実施を余儀なくされている。7月12日現在の累積感染者数は34万5,000人、死者は2,791人で、累積感染者数3万人、死者94人だった3月末と比較すると深刻な状況にあることがうかがえる。

NNAの記事によると、6月7日からワクチンの大規模接種が開始され、7月11日まで1,200万回以上の接種を実施、6月22日時点で1回接種した人の比率は7.9%に達したと報じられている。タイ国内でも5月にはインド由来の「デルタ株」が確認され、感染者の10%以上がデルタ株によるものと推定されている。

政府は6月28日から30日間にわたって、首都バンコクおよび近郊5県において、建設労働者の移動制限および宿舍封鎖、レストランの店内飲食禁止、映画館フードコートの閉鎖、20人以上の会合禁

止などの措置を実施する旨発表した。

タイについては、データの開示の日程の関係から、4～5月の2カ月の指数の平均により第3四半期（7～9月）の景気動向を予測する。景気の現状を指数化したNNA C Iは、3月まで10カ月間ほぼ連続で上昇して121.7をつけた後、4月には119.2と小幅ながら下落したが、5月は122.4まで改善し、新型コロナ感染症による停滞から回復後のピークをつけた。4月は、製造業生産指数、付加価値税収、普通預金実質残高の3つの指標が同時にマイナスに転じたことが、C I指数の頭打ちの原因となったが、5月にはこれらの指標は改善に向かった。

景気の方角感を表すNNA D Iは4～5月の2カ月平均で61.7%となった。この指標は、製造業生産、付加価値税収、自動車販売台数、輸入数量、普通預金、記事センチメントの6指標のうち、いくつか3カ月前から改善を示しているかを見るものである。同期間のNNA D Iは「薄日」のレンジにあり、各経済指標の動きは「景気はやや改善」するレンジに該当している。

月次のD I指標を見ると、4月の83.3から5月は40に下落している。自動車の国内販売台数や付加価値税収の指標が悪化し、D Iの月次指標の急落をもたらした。6月以降実施されている行動制限を反映して経済活動にブレーキがかかると、上記のD I指標が「やや改善」することを示唆しているにもかかわらず、景気が下降局面に移行する可能性がある。

6月23日に開催された中央銀行金融政策委員会では、第3波の到来により経済に回復の恐れが生じ、景気の下振れリスクが高まっているとの認識が示され、9会合連続で政策金利を0.5%に据え置くことが決定された。政策委員の経済成長率見通しは、21年は1.8%、22年は3.9%で、前回見通しの3.0%、4.7%からいずれも下方修正された。

日本格付研究所 国際審議役・チーフアナリスト 増田 篤

詳細は  で検索

#### 【景気判断基準】

##### 景気判断基準

80%～	快晴		景気は良くなる可能性大
60～80%	薄日		景気はやや良い
40～60%	曇り		横ばい
20～40%	小雨		景気はやや悪い
～20%	大雨		景気は悪くなる可能性大

#### 【留意事項】

本レポートに掲載される NNA 景気指数（NNA 指数）は、株式会社 N N A（以下、弊社）が情報提供を行う目的で作成したものです。NNA 指数の作成にあたり、弊社は情報の正確性等について細心の注意を払っておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。本レポートに記載した弊社及び株式会社日本格付研究所（JCR）の見通し、予測、予想、意見等（以下、見通し等）は、NNA 指数作成日現在のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。また本資料に記載した弊社および JCR の見通し等は将来の景気や株価等の動きを保証するものではありません。

NNA 景気指数の著作権は弊社に属し、第三者への無断開示、転用は固く禁じます。なお、JCR ウェブサイトへの掲載については弊社と JCR との合意に基づき行われております。